

## 防賀川緑地事業再評価審査表

事業名		綴喜都市計画緑地事業 101号防賀川緑地		補助・単独の別	補助事業
事業主体		京田辺市	事業箇所	京田辺市 東西神屋、東蒲田、河原外島、河原神谷、河原野色、草内大切及び興戸十曾地内	
事業概要	事業目的	本事業は、京都府で進められている防賀川河川改修事業に併せて「ふるさとの川整備計画」として防賀川(天井川)の切り下げ改修により創出された水辺空間を利用し、東西地域の新たな地域交流の場の創出、本場所に接続する国道307号による広域的来訪者と水辺の出会いの空間の形成、さらには災害時の防災拠点となる近隣公園としての整備を行うものである			
事業の進捗状況	事業費	22.7億円	事業面積	5.1ha	都市計画決定
	事業認可年度	平成3年度	経過年数	21年	
		計画	進捗金額(進捗率)		摘要
	事業費	22.7億円	18.0億円(79%)		
	用地取得	16.8億円	13.3億円(79%)		用地費支出予定:平成27年度まで
		5.1ha	5.1ha(100%)		登記簿は全面積が京田辺市の所有財産
	施設整備	5.9億円	4.7億円(80%)		
	供用面積	5.1ha	3.98ha(78%)		当初供用開始年度:平成6年
未供用部分の状況	未供用部分は用地取得が完了し、竹林伐採や測量など施設整備に向けた準備を始めている。				
社会状況の変化	利用圏域内の市街化状況、人口推移、社会経済情勢の特段の変化			無	
	公園計画区域及び周辺の自然的環境等の特段の変化			無	
	重大な影響のある上位計画の変更			有	防災拠点として整備する※
	重大な影響のある周辺の類似施設の整備状況の変化			無	
	重大な影響のある関連する他事業等の進捗状況の変化			無	
	※防賀川公園は、第3次京田辺市総合計画において防災拠点として整備することになり、公園内には防災施設を整備している。				
事業効果・状況	費用対効果	費用便益比(B/C) = 9.51(基準年次:平成24年度)			
		総便益(B) 約290億円(現在価値に換算後)			
		総費用(C) 約31億円(現在価値に換算後)			
		平成19年度算定と比較すると、防災施設の整備により防災効果が向上したことにより、総便益が大きく上昇した。			
	完成予定時期	平成28年3月施設整備の完了。平成29年度全面供用。			
	長期化の要因	財政状況に起因して、防賀川公園の用地取得が遅延した。			
	事業計画変更の有無	平成21年度に事業計画を変更し、事業完了を平成29年度に延伸。			
	今後の見通し	平成21年度に事業計画変更の認可が得られており、計画通りに進む見通しである。			
コスト縮減	盛土材料への建設残土の再利用や、施設規模の再検討、整備内容(材料、構造物等)の見直しによりコスト縮減を図る。				
代替案の可能性	用地は既に全面積取得済みであり、今後も計画通りに本事業を進める。				
京田辺市の対応方針	地元住民の意向を十分に踏まえながら、事業を引き続き継続して計画通りの完成を目指す。				